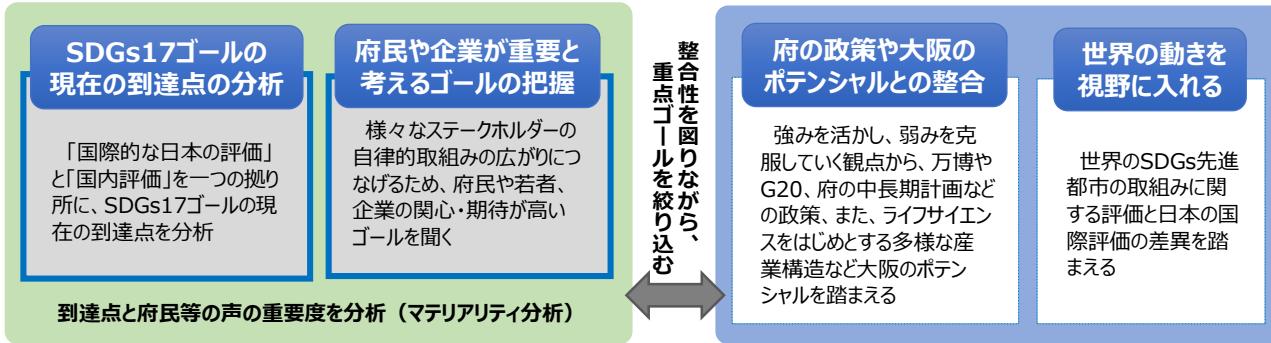


## 「SDGsビジョン」の策定に向けた、これまでの取組概要

- 2018年4月に知事を本部長とする庁内推進体制を整備し、府民等への理解促進や庁内各部署の主体的な取組みを推進。
- 本年度は、理解促進や各部署の取組みに加え、「大阪がめざすSDGs先進都市の姿（Osaka SDGsビジョン）」の取りまとめに向け、有識者WGを設置し検討を深めている。
- 8月に「中間整理案」を取りまとめ、SDGs17ゴールの現時点の到達点等を整理。その後、府民アンケートや若者、企業の声を聴取。これまでの政策との整合や関連も踏まえ、「重点ゴール」を絞り込み。
- 今後、ゴールごとの目標設定と取組みの方向性等を整理し、議会からのご意見やパブリックコメントなどを経て、**年度末に成案化**を図る。

## 1. 万博に向けて取り組む「重点ゴール」の考え方

- 2025年大阪・関西万博に向け、SDGs17ゴール全てを俯瞰しながら、次の考え方に基づいて絞り込んだ「重点ゴール」を中心に取組みを進めることで、「SDGs先進都市」としての基盤を整えていく。



## 2. SDGs 17ゴールの現在の到達点について【中間整理案】

- 公表されている「国際的な日本の評価（SDSN）」と「国内評価（自治体SDGs指標）」を一つの拠り所に、SDGs17ゴールの現在の到達点を4つの象限に分けて分析。

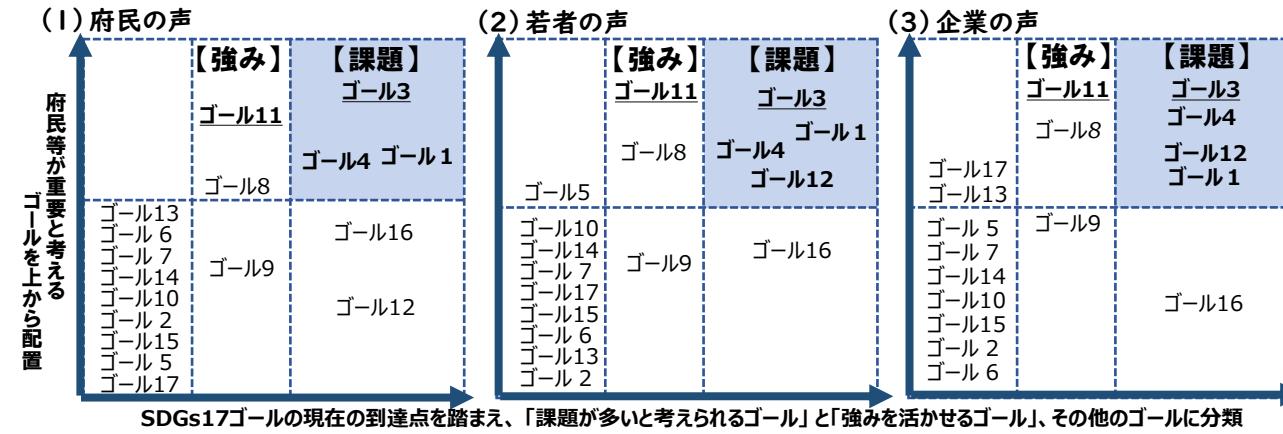
「自治体SDGs指標」からみた大阪の評価	高	<b>SDSNは低く、自治体指標が高い</b>	<b>SDSNも自治体指標も、高い</b>
		2 飢餓 7 エネルギー 10 不平等 11 持続可能な都市	13 気候変動 14 海洋資源 15 陸上資源 17 パートナースhip
		<b>SDSNも自治体指標も、低い</b>	<b>SDSNは高く、自治体指標が低い</b>
	低	5 ジェンダー 12 持続可能な生産と消費	1 貧困 3 健康と福祉 4 教育 16 平和
「国際的な日本の評価（SDSN）」からみた日本の評価			

### 《分析結果の一定のまとめ》

- 「1 貧困」や「3 健康と福祉」、「4 教育」、「16 平和」は、府民の“いのち”や暮らし、また、子どもや孫など将来の世代に関わるゴールとして、優先的に取り組むべき課題が多いと言えるのではないかと。（「5 ジェンダー」については、国全体の取組みが求められ、安全・安心面は「16 平和」に集約して取り組む。）
  - 環境関連のゴールを集約できる「12 持続可能な生産と消費」に関しては、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」など、G20大阪サミットのレガシーを未来に生かす観点から取り組むべき課題があると考えられるのではないかと。
  - これらの課題解決に向けては、他の全てのゴールや自治体の様々な役割を包摂する「11 持続可能な都市」や、「8 経済成長と雇用」、「9 インフラ・産業化・イノベーション」などの強みを活かすことができるのではないかと。
- ※ 本分析手法が国に評価され、【第3回「ジャパンSDGsアワード」SDGs推進副本部長賞】を受賞

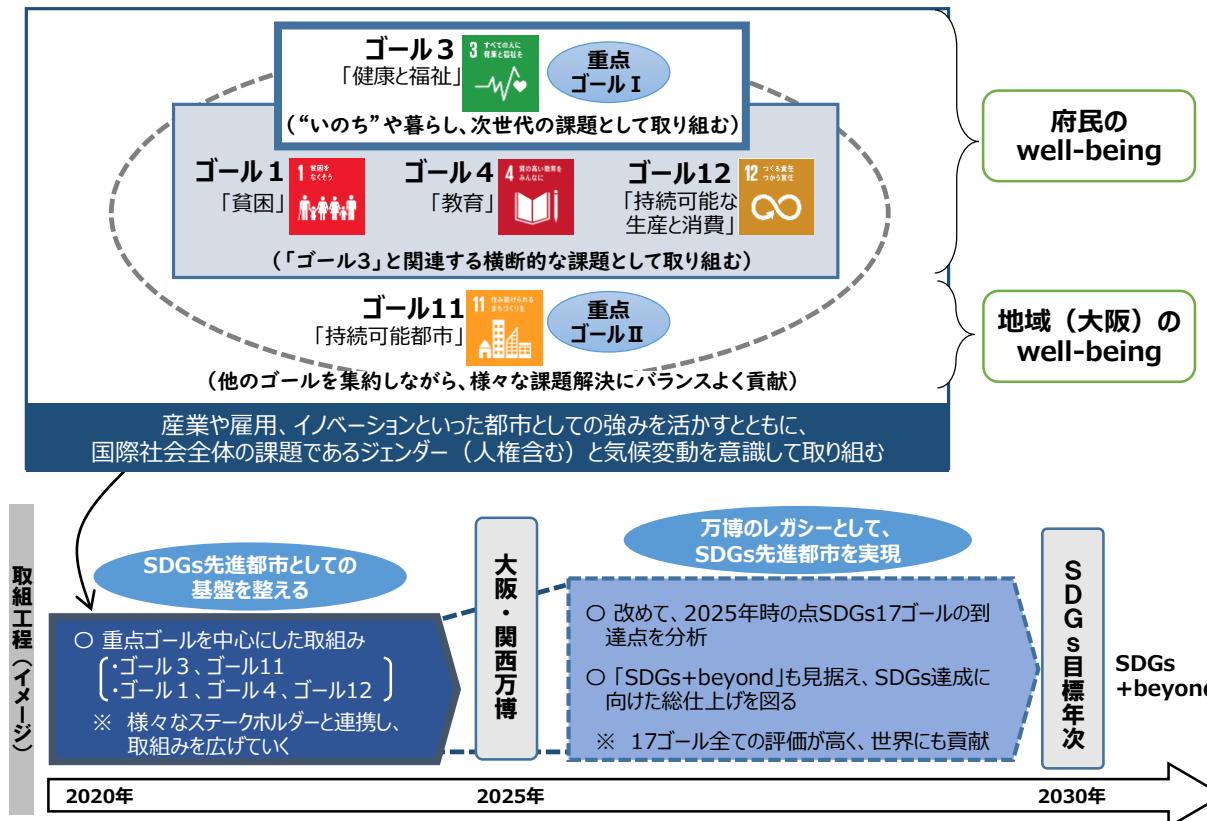
## 3. SDGs17ゴールの現在の到達点と、府民や若者、企業が重要と考えるゴールの重要度分析

- SDGs17ゴールの現在の到達点と、府民や若者、企業が重要と考えるゴールの重要度分析を実施。  
⇒ 府民、若者、企業それぞれ全てにおいて、課題は「ゴール3」、強みは「ゴール11」の重要度が高いという結果



## 4. 万博に向けて取り組む「重点ゴール」と、取組工程

- 万博のテーマである“いのち”や暮らし、次世代に関わる課題を有するゴール3を「府民の豊かさ(well-being)」をめぐり重点ゴールとして位置づけ、関連する横断的な課題としてゴール1、4、12に取り組む
- 他のゴールを集約しながら様々な課題解決にバランスよく貢献できるゴール11を「大阪の豊かさ(well-being)」をめぐり、もう一方の重点ゴールとして整理。
- これら重点ゴールの推進にあたっては、**産業や雇用、イノベーション**といった都市としての強みを活かす。
- 国際社会全体の課題である「ジェンダー（人権含む）」と「気候変動」を意識して取り組んでいく。



## 5. 今後のスケジュール

